

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>

協同組合間の連携・強化をめざして 協同組合交流会2015を110名の参加で開催

7月9日（木）オルガホールにて、協同組合交流会 2015 を 110 名の参加で開催し、活動事例の発表や講演を通じて、交流し学習することができました。

開会にあたり JA おかやま中央会青江会長より、今回の交流会が各協同組合の連携強化、発展につながるようにとの挨拶が行われました。来賓挨拶として、県農林水産部房野文彦次長より 2012 年以降協同組合の理解



農林水産部 房野次長

を高める取り組みが進み、多様なネットワークづくりや地域経済の発展への貢献、地域に根ざした助け合いなどにふれ挨拶が行われました。同じく来賓として県県民生活部くらし安全安心課岡野千鶴課長が紹介されました。

各活動事例発表では、最初に JA つやま青壮年部東部支部寺谷和也さんより『「いただきます」の心を広げる活動』をテーマに、学童農園での合鴨農法やサツマイモ植え付け体験を通しての食農教育の取り組みについて報告されました。

県漁業組合連合会平松義明さんより、『岡山の海苔養殖の現状について』をテーマに、温暖化や海の環境変化から経営を圧迫。後継者不足の課題等について報告されました。

久米郡森林組合甲元孝昌さんから『久米郡森林組合の取り組み「森からの伝言」』をテーマとして、木材輸入の自由化など厳しい実態や高齢化、後継者不足等山が維持できない問題から、「山の実態」を「見える化」する取り組みについて報告されました。



おかやまコープ市川洋子さん

おかやまコープ市川洋子さんから、「人と地域とくらしをつなぐ～地域社会づくりへの参加の取り組み～」をテーマに自治体と見守り活動や災害時物資の協定を締結し取り組みを進めていること、「はーとふるネット」の活動や子育てひろば、子育てくらすの活動について報告されました。

真庭市太田昇市長から『「里山資本主義」真庭の挑戦』をテーマに、急激な人口減少と高齢化は、まちの活力の急激な衰退を招くことの危機感から、豊かな生活や真庭ライフスタイルの提案を行ない、2020 年に人口の社会増を目指すこと、中山間の「地域資源」を活かすことを基本に、真庭の目指す「回る経済」と産業振興、木を使い切る真庭創出事業として「CLT 活用」による林業再生やバイオマス発電、熱利用促進などを進め、成果を出していることの講演が行われました。



真庭太田市長

最後に県生協連近藤会長から、行政や各協同組合、他団体も含めた連携の大切さなどにふれ閉会挨拶を行い終了しました。真庭市では、地域資源の活用を前提にそれぞれの取り組みが複合的に結びつくことによって、地域づくりの大きな成果を作り出していることなど学ぶことが出来、各団体報告では豊かな取り組みについて報告され、それぞれの視点から考えることが出来ました。



協同組合についてのラジオCMに初めて取り組みました。(6/29～7/3)

7月4日は国際協同組合デーです。
農協や漁協、森林組合、生協、私たち協同組合は、組合員どうしがお互いに助けあい、よりよい暮らしを実現する組織です。協同組合は、皆さんの暮らしに寄り添って活動しています。

第31回中四国生協・行政合同会議が高知で開催される

2015年9月3日（木）ホテル日航高知旭口イタルにて、『地域とともに安全・安心な暮らしをつくるために、今わたしたちができること』をテーマとして中四国生協・行政合同会議が開催されました。

開会にあたり日本生協連常任理事中四国地連議長小泉信司氏より、生活が厳しくなった1年、将来への不安や少子高齢化、地域の疲弊など事業を通じて暮らしへの貢献を進め、役割を発揮していくことにふれて挨拶されました。



開催県挨拶として高知県生活文化岡崎淳子部長より尾崎知事のメッセージとして、1人暮らしが増える中、地域での声掛け、見守り活動の取り組みや、台風等の自然災害に対して生協は災害物資協定や災害訓練への参加など、期待していることの紹介がされました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室長佐藤潤氏から、人口構造は、少子化の影響や単身世帯の増加、認知症高齢者 470 万人になることが想定されており、日常生活圏域ごとに地域包括ケアシステムの構築を進めることが必要。グリーンコープ福岡、南医療生協、千葉など訪問して生協の組合員の協同組織としての活動がよく理解できた。生産者と公益性の高い事業活動など展開していくことが必用であること。8月生協研究の資料から、事業と活動は組合員の暮らしに役立つ取組を実践しており、地域の拠点としての役割や生協が時代の要請に役立ていかなければならないことにふれてお話されました。

特別報告として、日本生協連渉外広報本部本部長伊藤治郎氏から、全国の生協の社会的取組について報告され、全国の事業高 2 兆 6,990 億円、夕食宅配は全国 1 日 10 万食を配達、福祉事業 200 億円規模、地域支援事業や地産地消、地域見守り協定の締結、全国 3 分の 1 の島にも配達、組合員どうしのたすけあい・お互い様の活動、生活困窮者支援に 8 生協が取り組むことなど報告されました。

高知県農業振興部より報告 高知県農業振興部環境農業推進課専門技術員中石一英氏から環境保全型農業の取組について、特に天敵昆虫をつかった害虫駆除の取組の実例について報告されました。

活動報告は、3 団体がいき、それぞれの特長を生かした取組報告が行われました。

- ①「広島県消費者基本計画（第 2 次）について」 広島県環境県民局消費生活課専門員 岡田裕子さん
- ②「地産知食活動～伝統食レシピブックの発行と活用～」 コープやまぐち 理事 河林由貴子さん
- ③「大学生協の食育の取り組み」 高知大学生協同組合 専務理事 立花慶治氏

分散会（グループ交流）では、参加した行政からの報告が行われ、その後「生協と行政で一緒に出来ること」をテーマに意見交換を行い、様々な事例交流をもとに豊かな事例について意見交換することができました。

次回開催県から島根県生協連合会会長鎌田憲男氏が決意を述べられ、閉会挨拶を日本生協連理事松本等氏がいき終了しました。

中国四国農政局各県支局開所式 岡山支局が開設

中国四国農政局は 10 月 1 日、岡山市の岡山第 2 合同庁舎において、中国四国農政局の各県支局の開所式が開催され、県消団連として近藤事務局長が参加しました。農林水産省の地方組織の再編として、各県にあった地域センターを廃止した上で、新たに県庁所在地等に支局が設置され、各支局には地方農政局長直属の地方参事官（支局長）が配置されました。

開所式では、仲家局長から「農政改革を着実に推進するため、これまで以上に地域と連携して現場第一で進めていく。これから一層、地域の人々に頼られる農政局にしていきます。」と、挨拶が行われました。

岡山支局長には、荻原喜江地方参事官が就任されました。



中国四国農政局と消費者団体との意見交換会を開催

10月23日中国四国農政局「消費者団体等との意見交換会」開催が開催されました。

「食の安全と消費者の信頼確保に向けて」をテーマとして、11の消費者団体等が集まり、県生協連から近藤会長、おかやまコープから森本理事が参加しました。

中国四国農政局消費安全部伊藤部長より、平成15年から意見交換会を開催していること。今回は基本計画の中の日本型食生活や食育の推進、食品安全に対する取り組み、TPPに関する情報提供に関して意見を頂きたいことの挨拶が行われ、その後食育の推進、食品安全に関する考え方、TPP交渉の大筋合意に関して、概略の説明がされました。意見交換として、食育の具体的な取り組み、学校給食における米飯の拡大、食育の取り組みの連携、耕作放棄地の問題や中間管理機構の基準、TPPにおける食の安全基準の問題等意見が出され、それに対する見解が述べられました。



岡山県へ要望書を提出しました

平成27年度の県への要望書を10月15日提出しました。
1. 生協の育成・強化について 2. 消費者行政について 3. 食の安全・食育について 4. 災害対策について 5. 岡山県の発展。地方創生 6. 環境対策について 7. 保健・医療・福祉・介護・少子高齢化対策について 8. 産消提携、地産地消運動について 9. 協同組合との連携。の9項目27の要望内容となっています。くらし安全安心課岡野課長、竹井総括参事に要望書を手渡し、その後内容の補足説明を行いました。2月に懇談を行う予定です。



中央 岡野課長、左 竹井総括参事

2015年 県生協連・医療部会内部研修会を開催 ～たのしく、生き生きとした支部活動をすすめるために～

10月17日オルガホールにて、医療部会内部研修会を48名の参加で開催しました。

岡山医療生協川崎組合員活動委員長が司会となり、倉敷医療生協道廣健康事業部部長から開会挨拶が行われ、その後各生協から、活き活きとした活動発表が行われました。

最初に「日本のエーゲ海 牛窓支部の元気な支部活動」を岡山医療生協中森さん。「楽しくいきいきとした支部活動」を倉敷医療生協黒住さん。最後に「支部結成に関わって・楽しさは交流会の原点」を津山医療生協松下さん、宰務さんから発表が行われました。講演として「いまなぜ、“つながりマップ



作り”か」をテーマに日本医療福祉生協連まちづくり委員長で医療生協健文会専務理事馬場康彰氏にお話をして頂きました。今日の情勢と医療福祉生協の役割や3つの「つくろうチャレンジ」とつながりマップ運動、つながりマップづくりや活用、最後に生協の仕組みを活かしてまちづくりを進めていくことを話され、分かりやすく大変参考になりました。

その後分散会では活動事例や講演についての感想等出し合い、津山医療生協藤本副理事長より閉会挨拶が行われ、終了しました。

第29回岡山県消費者大会を155名の参加で開催

10月27日オルガホールにて第29回岡山県消費者大会を155名の参加で開催しました。司会は県消団連幹事おかやまコープ森本温美理事が行い、開会前には倉敷医療生協による健康チェックも行われました。開会にあたり県消団連近藤幸夫代表幹事から、消費者大会が29回を迎えたこと、講演テーマにふれ挨拶がおこなわれました。

『不確実性の時代をよむ』～アベノミクスとTPPは暮らしにどう影響を及ぼすか～をテーマに京都大学大学院人間・環境学研究科准教授 柴山先生に講演をして頂きました。アメリカ、EU、中国、日本の4地域の景気がどうなのかにより世界経済の動



柴山先生

向がきまること、アメリカでは株価などリーマンショック前の水準を上回っているが、あらたなバブルが生まれつつあり、2016年後半から正念場に入ると予想される。欧州の不動産バブルの一方失業率の上昇、中国ではバブル崩壊の可能性がある。

日本は、長期デフレの中、収入が減るのに借金が減らない問題。アベノミクスが息切れとなり再びデフレ危機が起こる可能性。いま株価は上昇、実質賃金は下落し景気もゼロ成長になった。日本も富の集中が緩やかに進み、格差社会の再来、東京一極集中や大企業の税などについて指摘されました。

TPPで影響が大きいのは牛、豚、乳製品で特に酪農が大変となる。中小企業はメリットがなく、農業に対する打撃が大きい。

TPPの懸念材料として、アメリカ議会の対応や農村の衰退、経済効果3兆円の試算に対して農家対策3兆円と何のためのTPPなのか疑問であること。日本経済再生のためには国内経済全体の活性化と実質賃金の上昇にむけた取り組みが必要であり、そのためにも地方経済の再生が重要とお話をして頂きました。



講演の後、津山医療生協保健委員岡悦子さんにより、**ころばん体操の実技**が行われ、体を伸ばすなど全員でストレッチを行いました。

団体報告として JA 岡山県女性組織協議会 会長筒塩清美さんより『**地域の暮らしを守る 私たちの取り組み**』をテーマとして、安全安心な農畜産物を供給する立場から食農教育を推進していること、

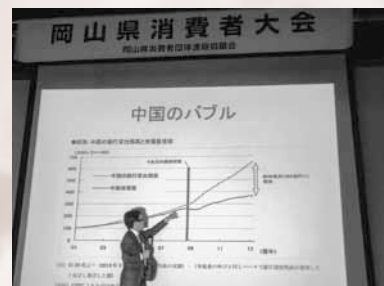
高齢化生活支援、環境保全や次世代をフレッシュミズとして育成している取り組みについて報告されました。

岡山医療生協牛窓支部長眞田美知子さんから『**日本のエーゲ海牛窓支部の元気な班活動**』をテーマとして、班長会の様子や署名を提出し市議会での国保料引下げの採決が行われたこと、各班で分担して役割を担いサロンを運営しているなど班を中心とした活動について、報告されました。

おかやまコープ美作エリア委員長生内清恵さんと井笠エリア委員長金高さおりさんから『**おかやまコープ 食べるたいせつ出前授業活動報告**』をテーマに、食べる大切の出前事業について、自分たちですべて作る場所からスタートし、テープサートの作成やメンバーどうし工夫しあい、作り上げていったこと。大型の食育かるた取りや野菜BOXでの野菜あてなど活動するグッズも完成し、食べる大切活動を進めたことについて報告されました。

消費者大会宣言案を倉敷医療生協山口京子さんが朗読し、拍手で確認。最後に県消団連代表幹事木下幸男岡山県労働者福祉協議会専務より、柴山先生の分かりやすい講演であったこと、マイナンバーによる消費者被害が発生していることにふれ閉会挨拶が行われました。

参加者からは「分かりやすくとても聞きやすかった。ニュースや新聞では知り得ない教授の生の言葉が魅力的で本当に素晴らしい内容であった。」「とても分かりやすく『目からウロコ』でした。TPPについてもよく見張っていかなくてはダメですね。内部情報も聞けて興味深かった。ありがとうございます。」「いろいろな生協がそれぞれの分野で頑張っていて活動されていると知り刺激されました。ありがとうございました。」「ストレッチがとてもよかった。こりがほぐれた。気分もほぐれた。」など良かった声が多数寄せられました。



会員生協 トピックス



岡山県学校生協



5年目を迎えた学校出前授業『南極クラス』

2011年12月にスタートしたセミナーも5年目を迎え、現在は出前授業『南極クラス』として内容も充実。「本物が体験できる」授業として先生や子どもたちから大好評。生徒10人の島の学校では自然児の活発な質問攻めに、スタッフも子どもたちに元気をいっぱいもらいました。子どもたちは、約2万年前の南極の氷が解けるときの「シュワシュワッ」という感動の音に、「わぁスゴイ！南極に行ってみたい！」と大歓声。この出前授業が岡山モデルとして全国に波及。各地の教育団体、学校生協が主催者となり、協力：国立極地研究所、協賛：ミサワホームで開催する出前活動が「教育支援プログラム」として評価され、経済産業省後援の2013年度 キッズデザイン賞を受賞しました。

三井造船生協

第37回三井生協家庭会 チャリティバザー

10月3日(土)10時より、玉野レクセセンターにて開催。気持ちの良い秋晴れの中、多くの方が来場され、タオル、洗剤、食器、衣料品などのバザー品を購入して頂きました。今回の収益金337,680円は全て玉野市へ寄贈し、社会福祉事業の活用に役立てていただく予定です。



秋の収穫祭

～お芋ほり～

10月12日(月)体育の日、山田地区にある溝口ファーム内の「コープ村」でお芋ほりがありました。秋空の下、親子29組、約70名が参加し、6月に植え付けたサツマイモを収穫しました。今年は昨年以上の大豊作！！土に触れ自然の恵みを感じるお芋ほり！今年も笑い声と笑顔いっぱいの楽しい収穫祭となりました。



岡山医療生協



戦争を語り継ぐ『だんごの会』の活動

岡山医療生協には戦争体験を語り継ぐ会サークル「だんごの会」があります。70年前“だんご”を美味しく感じた時代を忘れないようにと名付けられたサークルです。

10月27日、一年に一度の会員交流会を行いました。今年は戦後70年ということで、それぞれの思い出を書きとめ文集の作成を行っています。交流会では文集の作成途中ではありますが、それぞれが書いた作品を交流、70年前の生活などを語り合いました。

今の日本の状況や、機会があれば若い人に語り継いでいきたいと言った要望も話し合いました。

倉敷医療生協



「組合員活動交流集会」を開催

9月4日(金)、サントピア岡山総社にて組合員200名の参加のもと「組合員活動交流集会」を開催しました。班の現状をアンケートにもとづき報告した後、5つのテーマ(毎週活動している班、健康づくりにつながっている班、健康チェックを実施している班、居場所づくりになっている班、まちづくりの視点で班づくりをすすめている班)に沿って8名が活動の様子を生き生きと報告しました。討論では、参加者との経験交流もおこなわれた集会となりました。

岡山県労済生協(全労済岡山県本部)



「防災キッズ迷路」を実施

全労済岡山県本部では県内各地のイベントで「防災キッズ迷路」を出展し、大規模災害の際、子どもたちが生きて保護者と再会できるよう、防災教育を実施しています。秋に県内で開催されたイベントでの「防災キッズ迷路」では、多くのお子さまに地震が発生した際に生きる力を学んでもらう取り組みとなりました。

○HUGHUG WORLD 2015(HUGHUG主催)

9月20日(日)・21日(祝):コンベックス岡山

○おかやま元気まつり 2015(OHK岡山放送主催)

10月3日(土)・4日(日):コンベックス岡山

○キッズチャレンジ2015～生きぬく力を

『まなぼうさい』(玉島青年会議所主催)

10月10日(土):ふるさとかもがたぷらざ

(ビックハット)

津山医療生協



保健大学を開催しました

9月から行われていた保健大学の卒業式が10月20日に行われました。

60歳前から80歳までの16人が健康について学びました。初めて聴診器をあてて血圧を測ったり、笑いヨガでは大声で笑い体も心もぽっかぽかになり、7回の講座はとても充実していたようです。

理事長から修了書を渡され、後の雑談で思いを出し合っていました。



生協おかやまコープ



「忘れない3.11 震災支援交流会 2015」を開催

7月25日(土)、オルガホールにて、岩手県立大槌高校吹奏楽部の皆さんを招待し、就実高校・中学校にご協力いただいて、「～心は1,300kmをこえて～音でつながる「忘れない3.11 震災支援交流会 2015」を開催しました。283人が参加し、被災地の現状を知り、コンサートを楽しみながら、被災地を忘れない気持ちを新たにすることができました。この交流会を通じて、未来を担う世代とともに、今後の支援や活動の継続につなげていきたいと思っています。

岡山大学生協



グリーンキャンパスの取り組み

岡大生協学生委員会の主催で、津島・鹿田両キャンパスの学内清掃を実施しました（参加者総数68名）。当日は短い時間でしたが、空き缶・ペットボトルなど小さなゴミからビニール傘などの粗大ゴミの回収、生協店舗前のログテーブルの清掃など、学内清掃を通じて組合員と学内環境を美化していくことの大切さを考えました。また学内は全面禁煙となっていますが、たばこの吸い殻が両キャンパス合わせ2,428本も回収され、参加者も驚きを隠せない様子でした。

グリーンコープ生協おかやま



産直びん牛乳の酪農生産者に

「タオルとメッセージを贈る取り組み」

グリーンコープ生協おかやまでは、今年も産直びん牛乳の酪農生産者に「タオルとメッセージを贈る取り組み」を行っています。

生乳を日々生産いただいている生産者の方々に、搾乳前の乳房拭き用のタオルと「日ごろからグリーンコープの『びん牛乳』の生乳を生産していただきありがとうございます」の気持ちをこめたメッセージを集めて、生産者の元へ届けます。

タオルやメッセージを贈る取り組みを通じて、「顔の見える関係」がさらに深まっています。

おかやまコープ主催 コープフェスタ2015 2万人の参加で開催、3医療生協も参加



9月26日（土）おかやまコープ主催の「コープフェスタ2015」がコンベックス岡山で開催され、2万人の来場者で賑わいました。食イベント中心の内容で開催し、127社の商品紹介や試食、販売は例年通り大盛況でした。昨年に続き3つの医療生協が協力して健康チェックのブースを開設し、多数の方が訪れました。

また、2012年の協同組合年から継続して森林組合も出展しました。



医療生協 歯科チェック



医療生協 血圧・体脂肪チェック



森林組合の木工教室

～地域再生に向けて～ 時間の壁と向き合いながら進めるまちづくり

被災した市町では地域再生に向けた新たなまちづくりが進んでいます。どの地域も、人口減少問題を抱えるなか、個々の地勢や地域資源を活かした計画を策定し定住を呼びかけているのが特徴です。

津波で家屋の9割が被災した女川町は、山を切り取って高台に宅地を整備し、造成で出た約700万㎡の土を平地に盛って新たな市街地をつくっています。嵩上げた国道が防潮堤の役割を担い、中心部には役場や学校、病院、商店、観光施設などが集約。宅地をほぼ2キロ圏内の高台に分散配置することで、景観と安全、生活の利便性を確保しています。

ことし3月には女川駅と女川温泉「ゆぼっぱ」の営業開始を機に、「まちびらき」を行ないました。

「まち」の様子がたびたび報道されることもあり、女川町は復興が早いと見られています。しかし復興の指標の一つである災害公営住宅完了戸数は「4年半、一生懸命取り組み続けてきてもまだ3割程度」と、我妻賢一さん（女川町復興推進課課長）は焦燥感をにじませます。山の掘削、土の運搬、盛土と一連の造成作業に時間がかかるためですが、宅地の完成を待ちきれず「まち」を出ていく住民もいます。震災前は1万人強だった人口は現在約7,000人にまで減少しました。

高台移転や利便性の高い市街地づくりは住民に「希望を持っていただくためのもの」ですが、時間の壁が立ちはだかります。

さらに「街並みだけでは定住してもらえない。そこに心がないと…」と我妻さんは言います。そこで、住民のなかから「まちの心をつくる」様々なリーダーが育っていくよう、女川町は「まち活」プロジェクトに取り組んでいます。また高台の住宅地では早い段階から「まちづくり」参加の機会を設け、コミュニティ形成を図っています。

「女川は面白いまちになると興味を持ってもらい、住民同士の絆が深まれば、人口流出にも少しは歯止めがきくのでは」と我妻さんは期待を口にします。

「まちづくり」も「人づくり」も緒に就いたばかり。被災市町は時間の壁と向き合いながらこれからも厳しい道を歩いていかなければなりません。



▲女川駅と一体型の交流施設、女川温泉ゆぼっぱ



▲商店街の建設工事が進む駅前プロムナード。湾左手には女川魚市場や水産加工団地が並ぶ。